

# 鉄道ピクトリアル

2008年8月号増刊 Vol.58 No.8 通巻No.807

## <特集> 南海電気鉄道

■表紙 ニューフェイス 8000系……………編集部

住ノ江検車区羽倉崎支区 2008-2-1  
キヤノンEOS-1N EF85mm F1.8 RDPⅢ

### ■カラー

時代を走る (1~8, 169~171ページ)

沼尾吉晃・岩井雄二・山口大助・和田康之・和田京大  
……………浜野 淳・早川昭文・成瀬伸夫・戸塚光弘・三島達夫  
大沼一英・安田孝哉・堀切邦生・松田篤人

他社で活躍する元南海の車両 (172~173ページ)

……………小林 武・藤井信夫ほか

思い出の南海電車 (174~175ページ)

……………大津 宏・鶴田 裕・浜村正弘・小林 武  
昭和26年の南海電車沿線案内 (176ページ)……………所蔵と解説:坂戸直和

### ■グラフ

絵葉書が語る南海鉄道旧景……………所蔵と解説:白土貞夫…81

往年の南海電気鉄道 点描……………構成:編集部…86

思い出の南海線特急・急行……………構成:編集部…92

南海線 1970年代を彩った車両群……………竹田 辰男…94

晩年のサハ4801—難波口での入区手順を見る—……………竹田 辰男…96

南海電気鉄道 戦後車両の近代史……………構成:編集部…177

回想 南海の貨物輸送……………構成:編集部…186

他社へ行った南海の車両……………構成:編集部…190

### ■本文

今月の話題:南海電気鉄道……………編集部…9

総説:南海電気鉄道……………内田 宏…10

南海電気鉄道の鉄道事業を語る……………山部 茂・今城光英…18

営業設備とサービス……………愛甲 邦博…24

輸送と運転 近年の動向……………河田 祐治…28

駅、列車区のあらまし……………岡本 広基…40

車両総説……………福原 栄二…44

車両工場、検車区の概要……………谷中 大・鏡堂義章…51

線路と保線……………中山 卓・木村文彦…58

電力設備の概要……………河野 裕一…62

通信設備の概要……………小林 範雄…66

信号保安設備の概要……………谷本 晃久…70

阪堺電気軌道の現況……………中川 恵司…75

大阪府都市開発 泉北高速鉄道の現況

……………大阪府都市開発(株)経営企画室企画グループ…97

南海の設備改良プロジェクトをめぐる……………岡本 和夫…104

南海電鉄とともに—運転に携わったOBに聞く往年の南海—

山本泰司郎氏, 三崎章雄氏に聞くその時代…113

南海電気鉄道と阪和線 昭和時代を中心に……………竹田 辰男…128

回想の南海電車—昭和30年代を中心に—……………和田 康之…136

南海個性派列車列伝……………寺本 光照…142

南海電気鉄道紀ノ川橋梁の技術史的考察……………志水 茂・半野久光…158

南海車両 音と色……………中山 嘉彦…164

—建造から約1世紀の駅舎が健在—浜寺公園駅……………宮田 憲誠…166

南海電気鉄道 戦後車両の近代史……………藤井 信夫…193

南海電気鉄道 列車運転の興味……………湯浅 憲明…201

鉄道2 daysハイク 南海電車全線歩き乗り記……………根本 幸男…217

南海電気鉄道 現有車両プロフィール2008……………堂野 和幸…225

南海電気鉄道 車両編成表……………資料提供:南海電気鉄道車両部…270

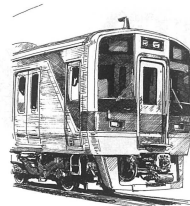
南海電気鉄道 現有車両主要諸元表・車両履歴表

……………作成:堂野和幸・湯浅憲明…272

後部車から……………287

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット:松本一雄

## 今月の話題

### 南海電気鉄道

南海電気鉄道は大阪・難波をターミナルとして大阪府南部、和歌山県北部に路線網を展開する大手民鉄である。路線は和歌山市に至る南海本線、世界遺産・高野山を結ぶ高野線の2つの幹線を中心に、南海本線泉佐野から分岐する空港線をはじめとする5路線を加えた154.8km(営業キロ)で形成され、都市間、関西空港への空港アクセス、高野山などへの観光、そして大阪圏域の通勤・通学と多彩な輸送を担っている。歴史的には1885(明治18)年日本最初の純民間資本の鉄道として、難波一大和川間を開業した阪堺鉄道を前身としており、今年で123年、現有の民鉄としては最も長い歴史を有している。

2007(平成19)年度末現在、一日平均輸送人員は約64万4千人で、近年減少傾向が続いていた輸送実績は、前年度に対しわずかながらプラスに転じている。資本金は637億3,903万円、本社は難波駅最寄りの大阪市中央区難波五丁目1番60号、従業員数は2,701人である。

1994(平成6)年、空港線開業に伴いスタートした関西空港アクセス輸送は苦戦を強いられたが、近年は当初の需要予測より依然として低いものの航空旅客数の回復などにより増加傾向となっている。また、鉄道事業を取り巻く環境が社会情勢の変化などによって大きく変わりつつあるなかで、南海本線の連続立体交差化事業の推進、難波駅周辺の再開発事業の取り組み、高野山への観光路線として高野線山線の振興プロジェクトなど、注目すべき施策が進められている。2005(平成17)年には輸送形態を大きく見直す改正を実施し、今年(2008年)春には新形通勤車両8000系もデビューするなど話題も多岐にわたっており、更なる今後の展開が期待されるところである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI  
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan